

2016年6月26日(日)朝10:10～
6月第4共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第7、受洗式・映写会
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：今すぐに悔い改めなさい

聖書：ヨハネの黙示録 3章1～6節

＜口語訳＞

新約聖書389頁

ヨハネの黙示録 3章1～6節

＜新共同訳＞

新約聖書455頁

ヨハネの黙示録 3章1～6節

＜新改訳第3版＞

新約聖書479頁

ヨハネの黙示3章1～6節＜塚本訳＞

新約聖書783～784頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙、8～11節は、スミルナの教会へ手紙、12～17節は、ペルガモの教会へ手紙、18～29節は、テアテラの教会へ手紙です。
- ◇ヨハネの黙示録3章1～6節は、サルデスの教会へ手紙です。
- ⇒サルデスは、テアテラから東南へ約40kmだったようで、アルテミス神殿があり、ルデヤの首都であったようです。
- ⇒サルデス教会の特徴は、「神信仰の無気力」でした。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第3章1～6節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録3章1～2節；サルデス教会は、死人のように無気力な神信仰の状態でした。

◇1～6節；塚本訳◆サルデス教会への手紙

「1 また、サルデス教会の御使いに(手紙を)書け、神の七つの霊と、七つの星とを持つ者がこう言う——私はお前の業を知っている。活きているという(えらい)評判はあるが、お前は死んでいる。

2 (早く)目を覚まして、死にそうになっていた(少しばかりの生き)残りのものを堅め(て生命を取り止め)よ。(人の前ではともかく、)私の神の前ではお前の業が完全でないことを私は見たのである。」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇1節a；「サルデス教会」への神の御子イエスキリスト様は、「神の七つの霊と、七つの星とを持つ者」と、ヨハネ書いています。

⇒「神の7つの霊」は、神の聖霊です。

⇒「**神の7つの霊**」は、ヨハネ黙示録1章20節では、「**神の7つの燭台**」でしたので、**神の7つの教会**をも意識した姿です。

⇒「**神の7つの星**」は、**神の7つの教会の御使い**です。

◇1節b～2節;「**サルデス教会**」への**神の御子の評価**は、「**活きているという(えらい)評判はあるが、お前は死んでいる**」(1b)で、「(早く)目を覚まして、死にそうになっていた(少しばかりの生き)残りのものを堅め(て生命を取り止め)よ。(人の前ではともかく、)私の神の前ではお前の業が完全でない ことを私は見たのである」と、**神の御子**は、**サルデス教会の指導者**に命じておられます。

⇒「**活きているという(えらい)評判はあるが、お前は死んでいる**」と言われる**指導者**は、「**神に対して死んでいる**」で、「**罪に対して死んでいる**」(ローマ6:11)との対比を感じさせます。

⇒**OS師**は、「**サルデス教会の指導者**」は、**神に対して完全に死んでいる**と理解しています。

⇒「**目を覚まし**γρηγορέω」は、「**神の御子の復活**」に与ることを再びすることの必要の求めです。

⇒「(早く)目を覚まして、死にそうになっていた(少しばかりの生き)残りのものを堅め(て生命を取り止め)よ。(人の前ではともかく、)私の神の前ではお前の業が完全でないことを私は見たのである」と、神の御子の命令は、「死にそうになっていた(少しばかりの生き)残りのものを堅め(て生命を取り止め)よ」で、サルデス教会の指導者は、仲間の再生のためにも、**神への信仰復興**を求められます。

⇒「**サルデス教会**」は、アルテミス神殿もあり、ルデヤの首都でもあったので、偶像礼拝や政治的課題との直面も想定されましたが、その戦いは、スミルナ教会、ペルガモ教会のようにはなかったようで、その結果、「**無気力**」な**神信仰**に陥らせるサタンの誘惑があったと見ることもできるのです。

⇒伝道者パウロが、ピリピ教会が福音に相応しい教会であるよう求めた時、それは福音のための戦闘教会であるように求めたことを連想させます。

⇒**神の福音のために戦わない教会**は、「**無気力教会**」に陥落するサタンの誘惑があります。

◆ 黙示録3章3～6節；サルデス教会は、今すぐに悔い改め、最初の信仰告白へ立ち返ることを求められました。

◇ 1～6節；塚本訳 ◆ サルデス教会への手紙

「3 だから、お前は(前に一体)何を(私から)受けたか、また(何を)聴いたか(、よくそれ)を思い出してみよ。そして、(その時受けたこと、聴いたことをしっかり)守って、(今直ぐに)悔い改めよ。それで、もし目を覚まさなければ、私は泥棒のようにやって来る。そして何時私がお前の所に来るかを、お前は決して知らないであろう。

4 しかし、サルデスにも(穢れた生活によって)その着物を汚さなかった者が少数はある。彼らは(来るべき王国で)白い着物を来て私と一緒に歩くであろう。彼らはそうすることを許されるに相応しい。(彼らは潔く生きている)からである。

5 (しかし)勝利者は(誰でも皆、)このように白い着物を着せられるであろう。そして私はその名を決して生命の書から消さず、

また、私の父の前とその御使い達の前でその名を告白するであろう。

6 耳を有っている者は、御霊が(全)教会に何と言い給うかを聴け」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇3～6節;「サルデス教会」への神の御子イエス・キリスト様は、「神の七つの霊と、七つの星とを持つ者」として、神への悔い改めを求めると、ヨハネに書かせていています。

⇒3節;「お前は(前に一体)何を(私から)受けたか、また(何を)聴いたか(、よくそれ)を思い出してみよ。そして、(その時受けたこと、聴いたことをしっかり)守って、(今直ぐに)悔い改めよ」と、「何を(私から)受けたか、また(何を)聴いたか(、よくそれ)を思い出してみよ」と帰る原点を先ず、示しておられます。

⇒その原点の中身は啓示されていませんので、テアテラ教会に見られた5つの善いわざの基本である「**神信仰**」の徹底でしょう。

⇒**神の御子への復活信仰**を覚醒し、死に行こうとする人々をも、**神の御子への復活信仰**に覚醒させることが、**神への悔い改めの本流**！

- ⇒4節;「**神の白い衣**」は、**神の義の衣**です。
- ⇔**サルデス教会の人々**は、皇帝礼拝、偶像礼拝及び不品行の生活等への陥落は、見られなかったようですが、「**無気力**」で、白い衣を汚していました。
- ⇒ですから、**神の御子**は、再び、「**無気力**」で、衣を汚さないため、**悔い改めて**、白い衣を着せたいのです。
- ⇒5節;「**無気力**」を**悔い改めた者**には、**神の御子**は、「**その名を決して生命の書から消さず、また、私の父の前とその御使い達の前でその名を告白する**」とも語って下さいます。
- ⇒「**生命の書**」は、**神信仰・神聴従**に生き抜いた者のしるしです。
- ⇒**KT師**は、**MM師**が書かれた書物を通して、ルターが語ったと言い伝えられている「**林檎の木**の苗木を植えた」出来事に言及しておられます。
- ⇒ルターは、**神の御子の再臨**による世の滅亡が定められても、**林檎の木**の苗木を植えると語ったのは、だれも刈り入れてくれなくても、天の人々が必ず刈り入れてくれると言った。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙、8～11節は、スミルナの教会へ手紙、12～17節は、ペルガモの教会へ手紙、18～29節は、テアテラの教会へ手紙です。
- ◇ヨハネの黙示録3章1～6節は、サルデスの教会へ手紙です。
 - ⇒「さばき」は、神の専権事項、恵みも、神の専権事項、「神礼拝σέβομαι」に全力を注ぎたい。
 - ⇒「祈り、願い、讚美、再宣言」と「神の愛と恵み」は、神のしもべの使命です。

- ⇒ヨハネに**黙示**されたことは、「**神礼拝**をする σέβομαι」ことに、「(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望」をもって戦う「ヨハネの兄弟」とされたことを光栄に思う**神の教会の人々**によって継承されるのです。
- ⇒「**サルデス教会**」は、迫害、偶像礼拝と不品行、皇帝礼拝は等の直接の害は見られませんが、「**無気力**」が、大きな課題となっていました。
- ⇒それは、「**サルデス教会**」の場合、迫害、偶像礼拝、皇帝礼拝に巻き込まれる危機との戦いがなかったためという皮肉な状況が、平和ぼけをもたらしたようで、これもサタンがさす誘惑のわざなのです。
- ⇒**神の御子 イエス・キリスト様**は、「お前は(前に一体)何を(私から)受けたか、また(何を)聴いたか(、よくそれ)を思い出してみよ。そして、(その時受けたこと、聴いたことをしっかり)守って、(今直ぐに)悔い改めよ」(3)と語って、「**神の七つの霊と、七つの星とを持つ者**」お方は、「**神のみことばに聴従**」する原点への回帰をお求めになりました。
- ⇒**神礼拝の手抜き**をしないで、**生かされたい!**